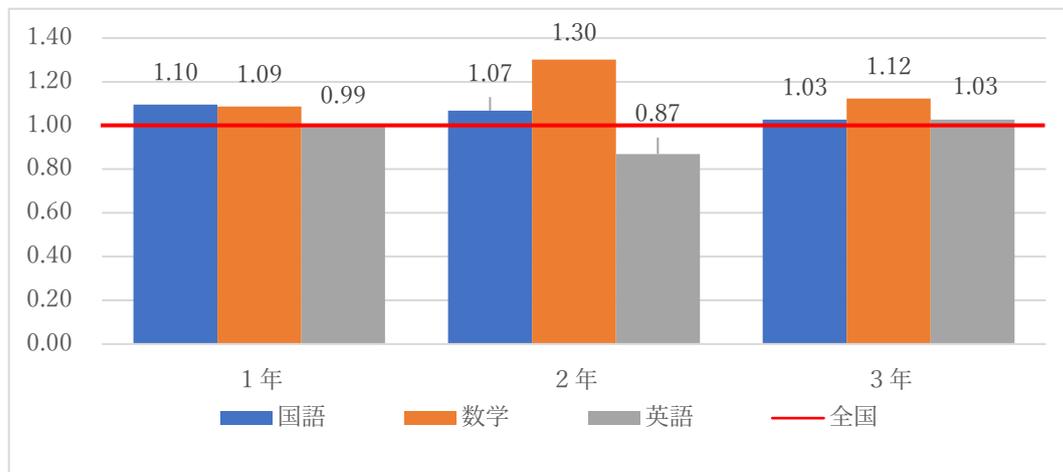


令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第十中学校区 第十中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生は学習到達度調査、中学3年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	全国平均をほとんどの項目で上回っており、概ね良好である。特に「読み取った内容を明確にして書く」「相手に伝わるように書く」が全国平均を大きく上回っており、ディベートの取組が反映されていると考えられる。
	数学	基礎・活用のいずれの問題についても、全国平均を上回っており、概ね良好である。多面的、多角的に考える力をつけてグラフを読み取ったり、データを分析したりする問題に対応できる力をつけていく。
	英語	「外国の人と話す」については全国平均を上回っており、その意欲と学びが繋がっている。一方で、1・2年生ともに基礎基本の定着を図っていく必要がある。特に、音読やリテリングを工夫し「話す活動」から「書く活動」につなげられるように努める。
全国学力・学習状況調査	国語	概ね全国平均を上回っており、特に「思考・判断・表現」について高い正答率となっている。「聞き取ったことを基に目的に沿って考えをまとめる」問題については、全国平均を大きく上回っており、ディベートの取組が反映されていると考えられる。
	数学	全ての領域で全国平均を大きく上回っており、「関数」領域については特段に高く、無答率も0%という結果である。記述問題においても無答率が低く、今後も「根気よく思考する」「考える力をつける」授業展開に努めていく。
	英語	4領域で全国平均を上回っており、積み上げてきた音読やリテリングの成果だと考えられる。一方、「書くこと」領域のみ無答率が高い傾向があり、その苦手意識を払拭できるよう、授業づくりに努める。
	質問紙	「自分には良いところがある」については全国平均とほぼ同じであり、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」については、全国平均を大きく上回る数値であった。自己肯定感、他者からの受容感があり、落ち着いた学びや学力につながっていると考えられる。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

中学校区として、学力向上への取り組みを各小中一貫部会にて、組織的に取り組んでいく。また、校区における三校の授業交流を通して授業改善を試み、ディベート教育の充実、家庭学習ノートの充実、英語力向上に特化した取組を実施していく。

【 学 校 】

「わかった」「できた」を実感できる授業、物事を多面的に見る力を身につける授業を研究テーマとして授業改善を進めていく。特に「考える」時間の設定を工夫して、子どもたちが未来を切り拓くことができるような学びをつくっていく。